

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200076		
法人名	医療法人社団 聖山会		
事業所名	グループホーム 風早の里		
所在地	千葉県柏市塚崎 997-3		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然にあふれる笑顔を大切にする」の理念に沿って、「笑いの処方箋」1日五回笑って、1日五回感動するを実践し、職員全員が入居者の皆様と笑顔で接しています。個別ケアに力を入れ、1対1の散歩、ドライブ、買い物、外食等を行っています。入居者の皆様の体調面に関しては、母体が医療法人であることから、緊急時、急変時には24時間体制で行えるよう協力体制を整え、ターミナルケアにも力を入れています。毎日を自分の家にいるようにゆったりと過ごしていただける事がスタッフの喜びです。風早の里での生活は静かに流れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム風早の里」は平屋建てのバリアフリーとなっており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。各ユニットの職員の個性や入居者の希望に合わせた施設作りを行っており、施設内の装飾・外出・行事等、都度アイデアを出しながら実施している。また、母体が医療法人であり、緊急時・急変時における協力及び医療面に関する相談を随時行っており、入居者の健康管理・家族の安心に繋がっている。また、薬剤に関する研修やAEDの設置等、入居者のニーズや緊急時における対策も講じている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年11月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「自然にあふれる笑顔を大切に」を基本とし、スタッフは笑顔で心がけ家庭的な雰囲気の中、入居者様が毎日笑顔で生活が送れるよう支援している。	「自然にあふれる笑顔を大切に」という施設理念を掲げていると共に、「素直 協調 気概」という社是を掲げており、事業所内に掲示している。理念・社是を毎日目に触れる場所に掲示する他、入職時の研修等を活用し、職員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、地域のサロンへの参加。福祉専門学校の実習生の受け入れを行っている。	自治会に加入していると共に、日頃から挨拶や声掛けを通じて、地域住民と交流を図っている。また、地域のサロンや地域行事への参加等を通じて、地域との交流を図っている。その他にも、地域の学生による職場体験の受け入れ体制の整備・実習生の受け入れを通じて、世代間交流及び地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の電話での相談、入居されているご家族の相談に随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・地区社共・民生委員・ご家族・入居者を交えての現況報告、出席者の要望、意見交換等を行い可能な限りサービス向上に努めている。	運営推進会議を年4回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・入居者・家族等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、防災講和を含めた避難訓練を運営推進会議内で実施しており、市や地域住民との協力体制強化に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会の会議に出席し、市との意見、情報交換を行っている。高齢者支援課、地域包括センターに直接訪問したり電話により不明な事項等を相談し早期に解決できるように連帯している。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を随時行い、連携を図っている。柏市グループホーム連絡会の会議に参加しており、市や同業者との意見・情報交換及び空き情報の共有等を行い、協力関係を構築している。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、事業所内での研修を行い、身体拘束防止マニュアルに沿って拘束のないケアを実践している。	身体拘束排除における研修の参加・マニュアルの整備を通じて、全職員への理解を促進している。施設として、身体拘束排除研修(基礎課程)の全職員受講を目指しており、施設サービスの適正化・人材の育成に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、事業所内での研修を行うと共に、職員のメンタル面に気を配り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、資料を配布し理解を深められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項の説明を行い不明点がないか確認している。改定の際は文書や口頭にて説明理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談窓口、意見箱を設置すると共に、家族来訪時や電話連絡時に家族の要望、意見を確認上がってきた意見や要望に対しては申し送りや会議を通して職員に通知、検討し迅速な対応を行っている。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議等を通じて、意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望においては、会議・連絡ノート等を活用し、全職員で周知・検討の上、適切な改善を図っている。また、それぞれのユニットで写真や入居者の様子を記したお便りを作成しており、家族の理解促進に向けた工夫も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議・個人面談時意見や提案を確認し、運営会議で検討、反映させている。	定期的に会議を開催していると共に、連絡帳等を活用して、職員からの意見・提案を確認している。また、年1回の面談を実施する等、個別に職員の意見や思いを確認する機会を設けている。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、又処遇改善交付金を活用している。サービス残業を無くし、各種研修への参加を多くし各自が向上心を持って働けるよう、職場環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修への参加、講師を招いての内部研修を行い、新人研修としてエルダー制度を導入。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の定例会、研修会に参加。又他ホームの見学を通して他施設の管理者、スタッフ間の交流をおこなっている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や、生活に対する習慣、こだわり精神面を丁寧にアセスメントする事で、ご本人を理解し、個別対応を行い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、真の要望や困っている事を確認、なんでも相談できる環境、雰囲気づくり、何時でも連絡が取り合える体制を整え、職員が周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の言葉やご本人の身体状況からニーズを導き出し、サービスを見極め必要とされるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いを大切に、生活を共に送る家族として、一緒に楽しみ共感し合える環境をつくりご本人に寄り添っていけるよう取り組んでいる。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回ご本人の日常生活の様子を各担当者が書き送付している。必要時にはご本人の様子を電話連絡し家族が面会に来られる機会がもてるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の意向に添って連絡できるように支援している。入居前の友人、知人との交流、馴染みの場所等を把握し、家族の協力を得て継続できるよう支援している。	友人・知人・家族等の訪問を随時受け付けていると共に、希望に応じて、手紙のやり取り等を支援しており、馴染みの関係継続に配慮している。また、グループホーム連絡会の交流行事や地域のサロンへの参加を通じて、新たな馴染みの関係構築を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾むような座席の配置に考慮したり会話をスムーズに行う為に職員が間に入り入居者同士が関わり合いながら生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ相談や関係機関の紹介等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の状態を観察し、ご本人の話を傾聴しながら思いや意向を把握しケアカンファを行い出来るだけご本人の意向に添ったケアの提供に努めている。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医療機関や他サービス事業所からの情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議・連絡ノート・申し送り等を活用して、全職員が常に新しい情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人の生活歴、こだわり、趣味、性格等をご本人、家族から聞き取り把握に努めている。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態をケース記録、排泄状態、水分食事量、バイタルを個々に記録し、朝の申し送り時に前日の状態、夜間の様子を報告、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の意向を踏まえ、記録を活用し管理者、居室担当者が介護計画の原案を作成しユニット会議において原案を検討、意見をまとめ介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認評価を行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人・家族の意向を基に会議で検討の上、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。担当職員制を導入しており、入居者一人ひとりの担当を中心に意見交換を行い、現場の意見を介護計画に反映させるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、日誌、健康管理表の記入、毎日の申し送りを通し情報の共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合の病院受診や緊急時の受診は家族と相談しながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理美容、地域の高齢者交流会等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診が可能である。状況に応じて管理者、スタッフが付き添う支援を行なっている。定期的に内科医、歯科医による訪問診療が実施されている。又訪問看護と契約を結び健康管理、相談を行なっている。	希望のかかりつけ医への受診が可能であり、必要に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。必要時・定期で内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な医療支援に努めている。医師・訪問看護ステーションとは、24時間連絡が可能な協力体制を構築している。その他にも、薬剤研修の実施・AEDの設置等、医療面・急変時における対策を講じている。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護のときや状態の変化時には、訪問看護の看護師に連絡、報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に情報の提供をおこない、面会や電話等で情報収集をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、もしくは終末期においてはご家族と話し合いを持ち、必要に応じてご家族、医師、看護師、管理者、介護スタッフとケアカンファを行い、ご本人、ご家族の意向に添った終末期の支援に努めている。	終末期・重度化における施設方針を明文化しており、契約時に説明の上、同意を得ている。必要時には、家族から意向を確認しており、職員間で検討を重ねながらできる限りの支援に努めている。状況変化やニーズを介護計画に挙げ、職員全員がすべきことを共有できるよう工夫している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習にスタッフ全員が参加している。新入職者も随時受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの非難誘導訓練を年2回実施。運営推進会議で家族参加での訓練も行なっている。定期的に火災報知機の取り扱い等を職員で確認、非常時に備えている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防避難訓練を実施している。今年度は、消防署立会いの下、地震想定訓練・通報訓練等を実施している。避難訓練を運営推進会議の際に行っており、市や地域住民への協力の呼びかけ・理解の促進へとつなげている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が理解しやすい言葉を用い、自己決定出来るよう配慮している。言葉使いをスタッフ間で確認しあい人生の先輩として敬意を持ち接する事を心がけている。	接遇の改善を施設目標に掲げており、必要に応じて、随時研修・指導を行っている。入居者の希望に応じて、同性介助を実施すると共に、各居室には、収納が設置されており、個々のプライバシーに配慮している。	

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけの訴えだけでは無く、表情、しぐさ等でご本人の思いを推測し、自己決定が出来るよう問いかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の状態に合わせ柔軟に対応するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は職員がアドバイスをしながら選んで頂いている。又訪問理美容、お化粧品教室に参加しおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力に合わせ、盛り付け、片付けをスタッフと一緒にしている。施設の食事以外に出前を取ったり、外食レクを行なっている。	献立作成及び食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。定期的に外食・行事食・出前・手作りおやつ等を実施しており、食の楽しみを提供している。また、特別食は、各ユニット毎に取り組んでおり、入居者の希望や職員のアイデアを生かした食の楽しみへと繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食事量を把握し、摂取量が減少した場合は、食事形態を見直し、ご本人に合った形態で提供又好みの物や栄養補助食品を提供している。水分は決められた時間以外にも提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。週1回の訪問歯科の診療、口腔内チェックをおこなっている。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握声かけやトイレ誘導で失禁をなくし自立に向けた支援をおこなっている。	排泄チェックリスト表等を活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、時間・仕草・状況に応じて、声掛け・トイレ誘導等に対応し、適切な排泄を支援している。また、訪問看護師や往診医への相談を随時行うと共に、便秘薬に関する研修を実施する等、適切な排便コントロールに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、水分補給、腸内環境を良好にする飲み物等の提供を行なうと共に主治医による薬の処方、毎日の運動を心がけている。便秘薬の研修や便秘についての研修を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、入居者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は無理をせず、タイミングを待ったりスタッフを交代して入浴をして頂いている。	入居者の希望や体調に応じて、回数等を調整し、適切な入浴機会の確保を行っている。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴も実施しており、入居者の清潔保持に努めている。脱衣所にトイレを設置していると共に、暖房機器を設置しており、プライバシーや快適な入浴に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の状態を把握し、自由に生活できるように気を配り、疲れている様子が有れば、声かけを行い居室で休んで頂く。夜間の睡眠状態を把握し個々に合わせた支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ルールに沿って誤薬が無いように服薬介助を行なっている。薬変更時には、目的や用法をその都度スタッフ全員が周知できるよう申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗い物、洗濯たたみ、掃除などを無理のないようお願いし、買い物好きな方には買出し時に同行してもらっている。歌が好きの方にはカラオケ等を楽しんでもらっている。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じてドライブや散歩を楽しんでもらったり、季節ごとの外出行事や外食レク等を行なっている。	入居者の希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を支援している。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。外出行事は、各ユニット毎で行っており、身体状況・希望に応えた外出活動に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設では管理していないが、紛失する可能性が有ると言う事をご家族が納得されている場合ご本人が持ち買い物時の支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいとの要望があれば相手先の都合に合わせて使用して頂いている。書ける方に対してはスタッフが協力し書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の飾りつけを行い季節感を感じていただけるよう気配りをしている。空調、換気、湿度に注意し機器の点検、清掃を行い清潔保持に努めている。	施設は、平屋建てのバリアフリーで、十分な介助スペースを設けており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。共有スペースには、ソファ・テーブル等を設置し、自由にくつろげる環境整備がなされている。両ユニットの間には、ウッドデッキが設置され、季節の花やイルミネーション等で装飾され、入居者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮し、自発的な行動が出来るよう配慮している。フローアや玄関にイスを配置し自由に過ごせるようにしている。		

【千葉県】グループホーム風早の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談し、馴染みの物を持ち込んで頂き、ご本人が落ち着いて暮らせるよう配慮している。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。ポータブルトイレやテレビを使用する事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。その他にも背の高い家具は耐震固定をする等、地震対策を講じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の名札は、迷わない用に個々に合わせ工夫している。手すりを配置し転倒なく安全に自由に歩行できるように配慮している。		